

第8回 男山地域まちづくり連携協定 年次報告会

令和4年2月9日

1

男山地域まちづくり連携協定の締結

地域とともに元気な暮らしができる、住みたい、住み続けたい男山
を目指し、京都府、八幡市、関西大学、UR都市機構が連携して取組んでいこう！



平成23年 9月 関西大学団地再編プロジェクト（文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業）開始

平成24年 4月 八幡市・京都府・関西大で戦略会議を開催 ⇒ 調査・検討・提案

平成25年 4月 UR都市機構が加わり連携協議会を開催 ⇒ 調査・検討・提案

平成25年10月 男山地域まちづくり連携協定の締結（無期限）⇒ 調査・検討・提案・実践・検証 ⇒

平成28年 3月 文科省補助事業終了

平成26年11月 - 令和4年2月 第8回年次報告会

2

男山地域まちづくり連携協定の目的

- (1) 次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導入・確立
- (2) 多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立
- (3) 地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立
- (4) 住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

3

平成26年3月 男山地域再生基本計画の策定

男山の将来目標

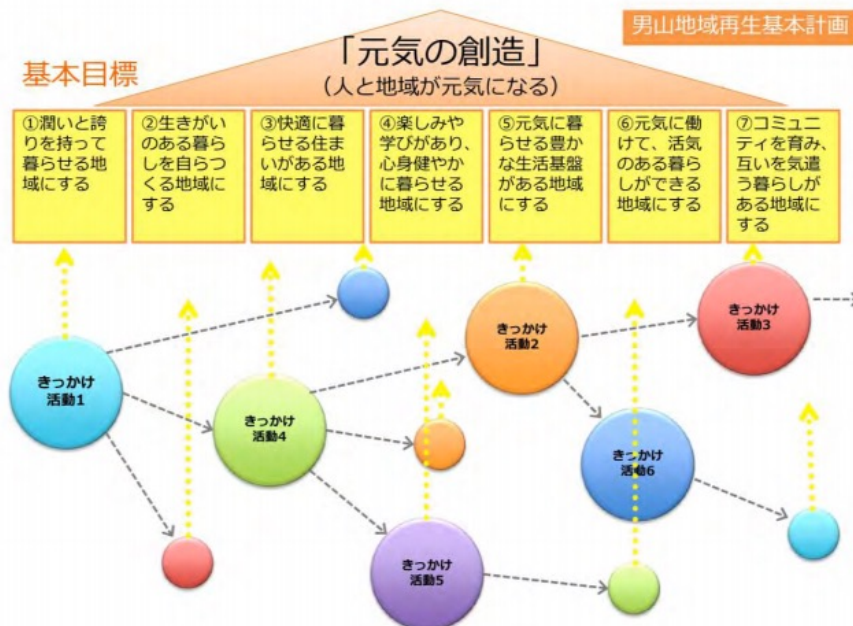
地域とともに元気な暮らしができる、
住みたい、住み続けたい男山



4

平成26年3月 男山地域再生基本計画の策定

「元気の創造」を生み出す7つの基本目標と「きっかけ活動」



現在、連携・協力事項により、具体的な取り組みである
様々な「きっかけ活動」が始まり展開している。

5

子育て支援の取組み

(1)次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、
地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくり

6

ダンチ de コソダテ の取組み

おひさまテラスの運営

開設以来、必ず誰かが訪れる地域子育て施設

新型コロナに負けず、元気に活動中！

2018年京都府子育て支援表彰受賞！

保育士やボランティアと一緒に楽しみながら子育てを楽しむ場所として運営しています。

感染予防対策をしっかりと、こどもやママにとってかけがえのない場所となるよう元気に活動中。

開設：平成26年12月1日～

場所：男山団地A地区集会所内

運営：おひさまテラスの会（地域ボランティア）

時間：月・火・金・土(第2・4)午前10時～午後4時

対象：0歳～就学前のこどもとその親

利用親子組数（令和2年度実績）

562組（約4組/日）



7

ダンチ de コソダテ の取組み

☆外国人のお友達も増えています

おひさまテラスの様子を見て、「わー遊んでいい？」って遊びに来てくれました。
日本語を教えたり、アラビア語を教えてもらったり…
たくさんの国の方が来てくれています。



☆リサイクル活動にも取り組んでいます

「リサイクル用品、洋服ありますか？」という問い合わせが多くあります。
おひさまテラスでは、先輩のお友達からいただいた用品、洋服のリサイクル活動にも取り組んでいます。



8

関西大学による団地リノベーションの取組み

子育て層などの若い世代へ訴求し得るリノベーション住宅を、関西大学設計プランを主軸として、UR男山団地に投入（H26年度より過去7回実施）＜H26～R2年度供給実績21プラン41戸＞

【写真】 関西大学設計リノベーション住戸の一例



H26「のびやかに暮らす」



H27「ひろく暮らす」



H28「ロビーラウンジのある
住まい」



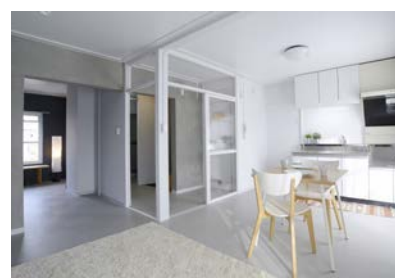
H29「L字型引戸使い分ける
自由な暮らし」



H30年度「自分で作っていく住まい」



R元年度「縁側のある住まい」



R2年度「小さく広く住む」

関西大学による団地リノベーションの取組み

令和3年度は新規2プランを供給

令和3年度プラン①「暮らしの中で働く住まい」



水廻りの改良として、洗濯機置き場をキッチン横に移設し、トイレの建具を撤去し、さらに浴室の建具を透明アクリルにすることで奥行きが生まれ、水廻り空間が明るくなりました。

当該住戸は5階に位置し風通しが良く、北側には公園、南側には木々が生い茂り、環境に恵まれた立地です。その恵まれた環境を生かすため、土間と居室との間に室内窓を設け、これにより土間と居室のつながりを作り、外の緑あふれる景色へ視線が抜けていきます。

【コンセプト】

在宅ワークやフリーランスで働く人の増加を踏まえて、自宅の中に衣食住とは別で作業場や仕事場、おもてなしの場として利用できる土間空間を設けました。

南北の居室を隔てていた北側の押し入れを撤去し、ワンルーム住まいとすることで南北に広がり生まれ、風通しの良く明るい居住空間となりました。



関西大学による団地リノベーションの取組み

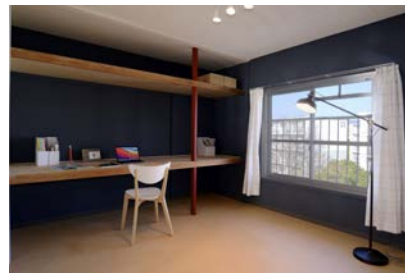
令和3年度プラン②「切り抜く住まい」

After<1LDK>

Before<3K>



【コンセプト】元の住戸は3部屋ありましたが、壁の一部を切り抜き開口にすることで、明るく開放的な空間にしつつプライベート空間を確保できる住戸としました。従来の押し入れ部分は収納を兼ねたデスクにコンバージョンし、床は全て畳からフローリングに変更しました。切り抜いた壁は「南北の抜け」を残し、気候の良い時期には気持ちの良い風が住戸を通り抜けます。



11

地域包括ケアの確立

- (2)多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立
- (3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

12

八幡市地域包括ケア複合施設YMBT

地域密着型特別養護老人ホーム 定員 29名

高齢者あんしんサポートハウス 定員 20名

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

多目的ホール

UR男山団地内において
平成27年11月1日 地域包括ケア複合施設YMBT 開設

13

地域包括ケア複合施設YMBTの役割①

多様な高齢者のニーズに対応できる施設

- ・地域での生活を24時間体制で支援(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)
- ・低所得者向けの高齢者居住施設(あんしんサポートハウス)
- ・地域の重度要介護者が生活する施設(地域密着型特別養護老人ホーム)



折り紙教室



実習生との交流

14

地域包括ケア複合施設YMBTの役割②

元気高齢者の参画、地域へのサービス提供の場の確保

- ・多目的ホールの活用



毎朝のラジオ体操



出前講座、地域の催し等



介護予防への取り組み

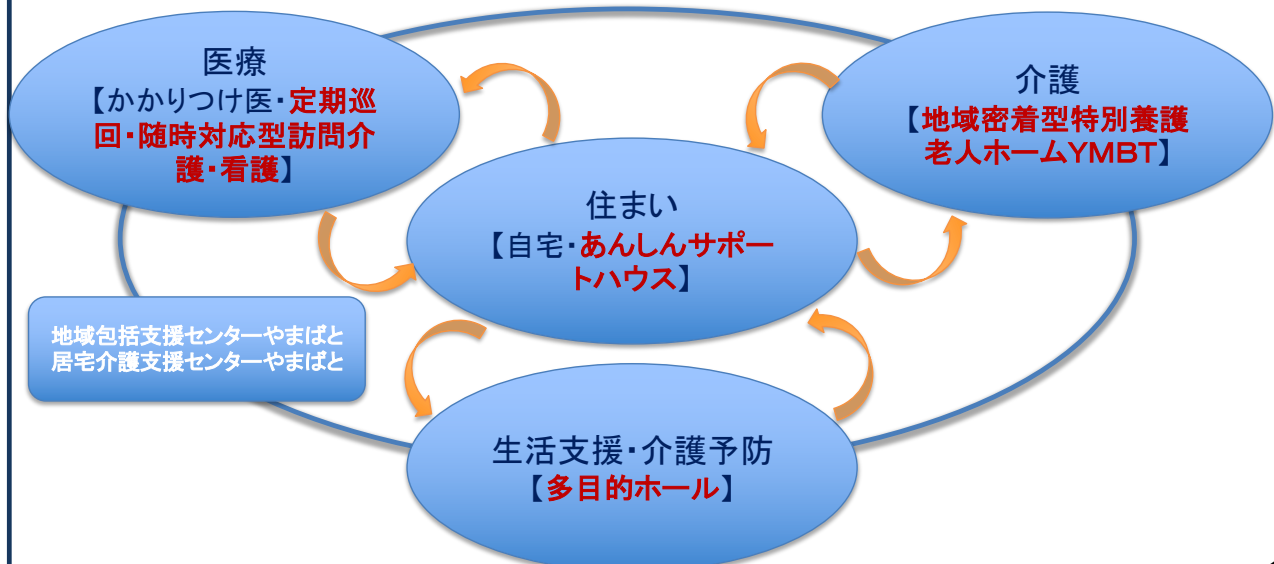
15

地域包括ケア複合施設YMBTの役割③

地域包括ケア推進拠点

- ・医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスを包括的に提供

地域包括ケア



16

地域医療福祉拠点化の取組み

URの地域医療福祉拠点化の取組みは、住環境の整備や、地方公共団体、医療・介護等を担う関係団体等との連携を図ることにより、暮らしやすい団地・地域の形成、団地で最後まで住み続けられる環境整備を目指すものです。拠点化の進め方に決まった形はありません。地方公共団体、自治会等の地域関係者と連携・協力しながら、地域の状況に応じて、様々な要素の中から必要なものを組み合わせて、住宅・施設・サービス等の整備を推進していきます。

男山団地では、連携協定に基づき様々な整備が進められている中、ここでは、「中層エレベーターの設置」「健康寿命サポート住宅の供給」「生活支援アドバイザーの配置」について紹介します。



17

地域医療福祉拠点化の取組み

1 中層エレベーターの設置

男山団地をはじめ、昭和40年代に建設した郊外団地には、5階建て・エレベーターなしの住棟が数多くあります。

地域医療福祉拠点化を進める団地における団地内共用部のバリアフリー改修について、国からの支援が拡充されたことを受け、H30～R1年度にかけて、男山団地の一部の住棟に中層エレベーターを設置しました。



B42、B44、B45の3棟は
H31.3.20～供用開始

B38、B39の2棟は
R2.3.13～供用開始

18

地域医療福祉拠点化の取組み

2 健康寿命サポート住宅の供給

手すりや浴室暖房を設置する等、高齢者の方の住戸内の安全・安心に配慮した「健康寿命サポート住宅」への改修をすすめています。平成28年度からこれまでに79戸供給しております。



- ・人感センサー付照明
- ・手すりの設置 など



- ・またぎ高さを低く設定
- ・浴室暖房の設置 など



- ・段差の軽減
- ・多機能便座への変更 など

19

地域医療福祉拠点化の取組み

3 生活支援アドバイザーの配置

高齢者の方が安心して暮らし続けられるよう、各種相談対応や電話によるあんしんコール、交流促進のためのイベント等を実施しています。

R3年度はコロナ禍を考慮し、密を回避した形でイベントを開催しました。



R3.12月開催 雪印メグミルクによる「骨・カルシウムセミナー」

周知案内の事例

生活支援アドバイザーの配置について

この度、当団地にお住まいのご高齢の皆さまの日常生活をサポートする『生活支援アドバイザー』を当団地管理サービス事務所に配置致しました。

① 配置場所 管理サービス事務所

② 営業日時 月・火・木～土曜日:9時30分～17時(12～13時は昼休み)
※ 水・日曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)は定休日

③ 電話番号 (生活支援アドバイザー専用番号)

◎ 主なサービス内容

- ① ご高齢者の日常生活にかかわる相談受付
※ 管理サービス事務所に相談ブースを設置しております。
- ② URの高齢者向け制度のご案内
- ③ 公的機関等の高齢者向け施策に関するご案内
- ④ 定期的な安否確認(「あんしんコール」[登録制])

※ これらのサービスは、原則60歳以上のご高齢者の方を対象にさせていただきます。

生活支援アドバイザー紹介

名 前 : 皆様のお役に立ちますよう一生懸命業務に取り組んで参りますので、宜しくお願い致します。

20

絆ネット事業とは

【目的】

地域の高齢者、障がい者、児童などの見守り・生活支援を進める上で、複数機関の連携による支援や公民協働での支援など、地域の様々な主体による取組を横断的に調整・推進し地域全体での新たな見守り活動を展開、地域福祉の再構築を目指す。

【実施主体】

八幡市社会福祉協議会

取組み内容

- 住民による見守り・支え合い活動の推進
- 絆ネット地域懇談会の開催

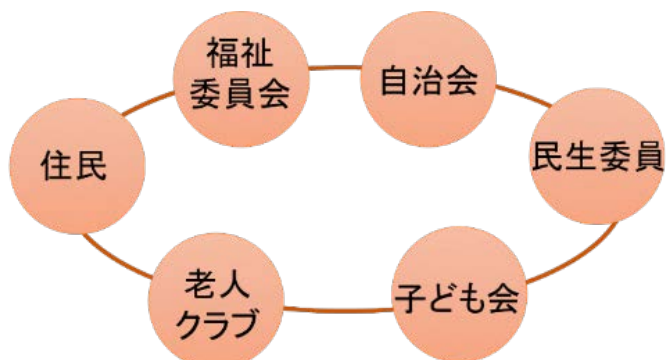
21

住民による見守り・支え合い活動の推進

概 要

自治会、福祉委員、民生児童委員、老人クラブ等の地域団体が地域の実態共有や課題解決に向けた取組みについて協議するネットワークとして、自治会単位での地区座談会を推進している。

また地区座談会を通して、取組みに応じた組織化等の活動支援を行う。



想定される団体のイメージ図

22

絆ネット地域懇談会の開催

概 要

地域活動者と専門職等関係機関が一同に集まり、取組みや地域課題の共有を行い、各地域での活動活性化、課題解決に向けた様々な連携促進を図ることを目的に開催します。

《主な参加団体》

各地域活動者（自治会、福祉委員会、民生児童委員、老人クラブ）
男山交番連絡協議会
八幡防犯推進委員協議会 男山支部
八幡市地域包括支援センターやまばと・美杉会
小学校・中学校（さくら・くすのき・男山第二・男山第三）
UR都市機構
生活情報センター
八幡警察署
男山地域コーディネーター（だんだんテラス）
八幡市
八幡市社会福祉協議会

23

絆ネット地域懇談会の開催

●八幡市（男山）の外国人住民が増加していく中で…

地域住民による外国人住民とのかかわりに関する声

騒音、ごみの取り扱いや郵便受けのマナーが気がかかりであるがどう話したらよいか。

こちらから挨拶すると元気に返事してくれている。

外国人居住者に声をかけると郵便局を探すのが大変そうであった。

機関や団体による外国人住民とのかかわりに関する声

マナーに関する相談を聞くが文化や習慣も異なるので、どのように理解を求めるべきか。

日本語が話せない状況で転入した生徒に対し教育を受ける体制が必要と感じる。

●声を聞いていく中でわかったこと…

- ・地域では、外国人住民のことを気にかけている
- ・外国人住民自身も日本の生活で悩んでいることもある

⇒外国人住民も含めた住みやすい男山地域を目指すために、外国人住民の実態を共有しながら、地域できることを考えていく機会とする

24

絆ネット地域懇談会の開催

【日時】令和3年11月25日 14時～16時

【場所】男山中央センター集会所

【内容】テーマ: 男山地域における多文化共生の地域づくりについて

●取組報告

- 1) 八幡市の外国人住民の現状について
- 2) 日本語指導が必要な外国籍をもつ生徒の支援について
- 3) にほんご教室の取組について
- 4) だんだんテラスの取組について

●意見交換



25

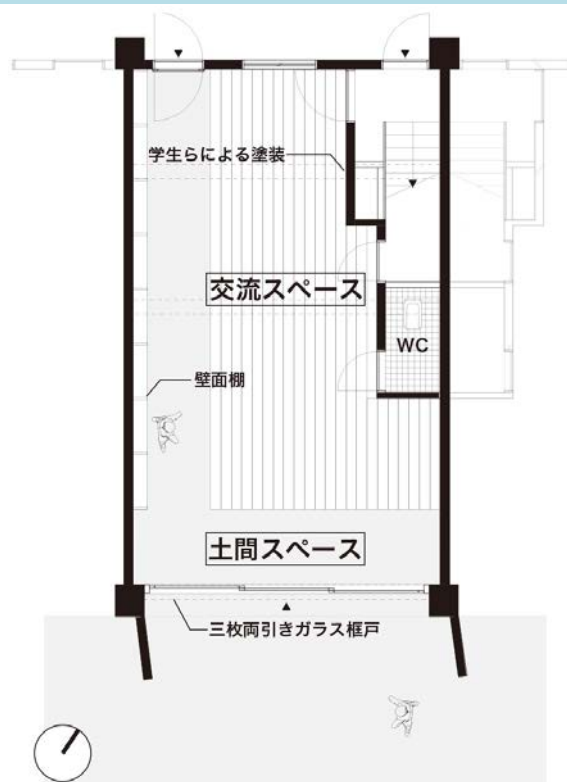
だんだんテラスの取組み

(3) 地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

(4) 住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

26

365日気軽に集まれるだんだんテラス



開設日：平成25年11月16日～

運営：だんだんテラスの会

主に大学院生が常駐

時間：年中無休（10時-18時）

住民と学生が協働で継続した運営をめざす

27

屋外でのラジオ体操は毎日継続



リモートによる活動



日常的な小規模なイベント



コロナ禍では活動の難しさも感じながら様々な工夫により継続²⁸

関わりつづけるをテーマとしたまちづくりの実践

だんだんテラス 平成25年開設



だんだんラボ 平成30年開設



食の拠点（仮）開設未定



3つの地域拠点を中心に 実践的な活動を展開

H25～これまで、男山地域内に3つの地域拠点を開設。地域住民と交流を図りながら、ソフト・ハードの両面から団地、地域再生の実践活動を展開。

大学、UR、八幡市、住民、大学OB・OGも継続的に関わり運営を行う。

29

集会所を中心としたプレイスメイキングの実践



D地区集会所リノベーション「食」の拠点化プロジェクト

利用頻度が減少していた集会所をリノベーションし、「食」をテーマとした拠点を目指す。UR都市機構とだんだんテラスの会が協働。

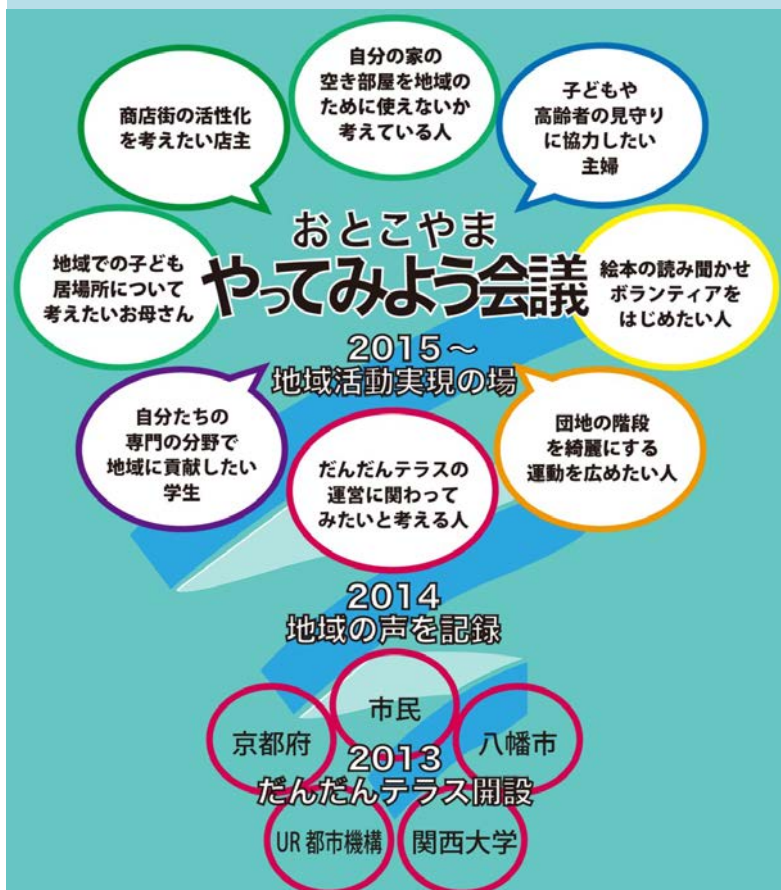
30



新たな地域拠点D地区集会所の活用の準備中。

31

まちづくり運動体やってみよう会議の開催



男山やってみよう会議

○毎月第3土曜日開催

自発的・自立的に

男山地域のまちづくりに
関わりたい市民を公募。

○開催の狙い

日常の場（だんだんテラス）

非日常の場（やってみよう）

2つのプラットフォーム
で住民活動を支援する。

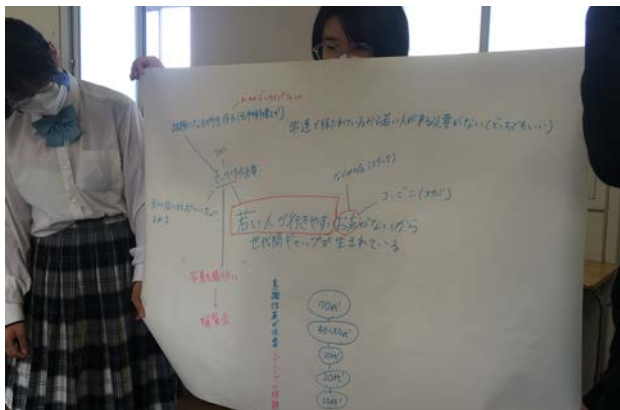
32



男山団地中央センター商店街の活動支援。

33

地元高校生との取組「商店街を盛り上げよう」



コロナ禍で活動を見直し
八幡支援学校と連携を継続
これまで実施してきた「カフェよろーな」は、新型コロナウイルス感染拡大の状況によって継続を断念。企画を練り直し、高校三年生「職業」の授業でフィールドを商店街として商店街活性化の提案づくりと実践をプログラムとした。

34

R2年度男山地域に滞在するアーティストらと交流



アーティストインレジデンス「京都:Re-Search in八幡」

アーティストは、団地に居住しリサーチを実施。だんだんテラスでの交流を通じて、令和2年度は、作品のプランづくりを行った。令和3年度に作品を制作・発表予定。

35

R3年度男山団地に滞在しアーティストが作品制作



アーティストインレジデンス 京都:Re-Search in八幡

アーティストは、団地に滞在して作品を制作。だんだんテラスでの交流を通じて、令和2年度は、作品のプランづくりを行った。令和3年度は、作品を制作し、石清水八幡宮頓宮会場、松花堂庭園・美術館の2会場で1ヶ月間展示した。

36



不用品を活用した団地屋外空間での居場所づくり。

37



外国語学部高橋ゼミの研究活動。外国籍こども向けの学習支援。38

外国人住民との共生について

(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立



39

八幡市における外国人住民の現状

八幡市総人口

69,985人

八幡市の外国人住民

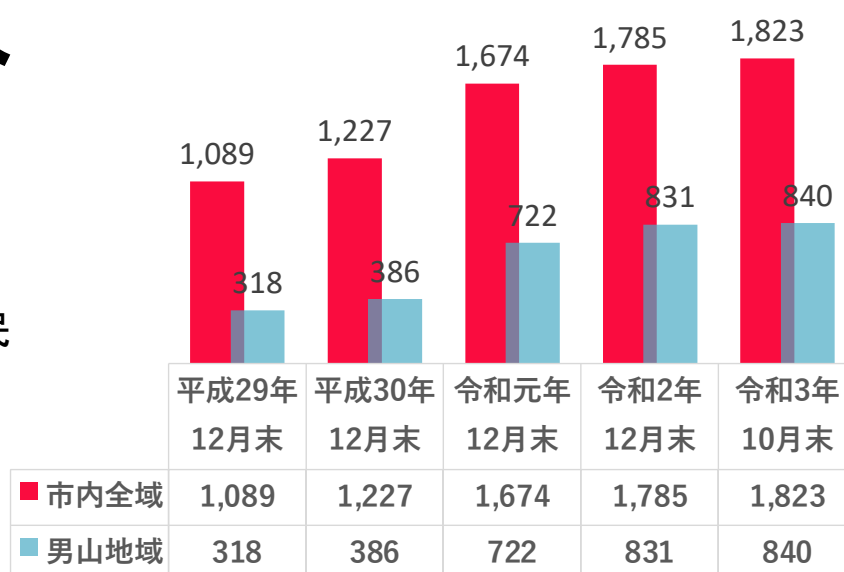
1,823人

男山地域の外国人住民

840人

※令和3年10月末

外国人住民人口の推移（単位：人）

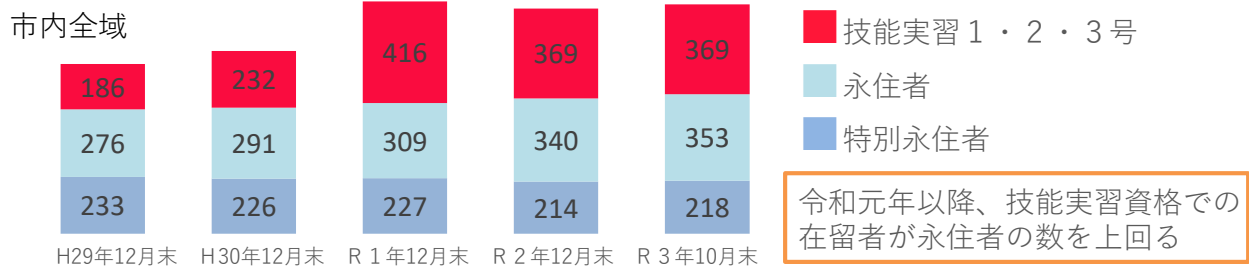


- ・市内企業の技能実習生の受け入れ等により、外国人住民の人口は、年々増加している（総人口の約2.6%）
- ・近年増加している外国人住民の多くは、男山地域に居住

40

八幡市における外国人住民の現状

外国人住民の在留資格別の推移（上位3資格）（単位：人）



外国人住民の国籍別人数（上位5カ国）（単位：人）※令和3年10月末時点

市内全域		男山地域	
国 籍	人 数	国 籍	人 数
1. ベトナム	559	1. ベトナム	428
2. 中国	276	2. ブラジル	83
3. 韓国	245	3. 韓国	59
4. ブラジル	151	3. 中国	59
5. スリランカ	71	5. シリア	40
八幡市の外国人住民の総数	1,823	男山地域の外国人住民の総数	840

！・男山地域には、ベトナム人・ブラジル人をはじめ、様々な国籍や在留資格の外国人が居住 ⇒ 市やU Rに外国人に関係する相談が増加

41

住まい方説明会・交流会の実施



男山団地の外国人居住者に対する 住まい方説明会及び交流会

日時：令和2年2月4日（火）午後7時～9時 場所：男山団地中央センター集会所
参加者：110名（うちベトナム人技能実習生33名）



生活ルールや
防災情報の説明



日本文化の体験
（節分の豆まき）



地域住民との交流
代表者あいさつ

⇒ 監理団体や外国人受入企業との協働のモデルケースとして、今後も実施予定

42

くらしのそうだん事例集の作成

生活相談の背景

外国人

- ・ 当人に悪気はなく、日本の文化やルールを知らないだけ
- ・ 言葉が通じないため、自分の言い分などを説明できない



日本人

- ・ 外国人に慣れないため、不安を感じている
- ・ 言葉が通じず、相手のことを知らないため直接話さない

事例集の構成

- ・ 内 容：外国人受入企業等から事例をいただき、「よくある相談事例」としてとりまとめ。外国人と日本人の心情や、解決方法等をあわせて掲載。
- ・ コラム：日本に住む外国人に知っておいてほしいくらしの情報を掲載。（自治会と回覧板、災害と避難所等）
- ・ 翻 訳：外国人受入企業等にご協力いただき、やさしい日本語の他、英語、ベトナム語、ポルトガル語版を作成。



事例集作成の目的

- ・ よくある相談事例と解決方法をまとめ、地域での共生実現の一助とする
- ・ 住民がお互いのことを知るためのきっかけづくり
- ・ 連携協議会と外国人受入企業等との協働による地域課題への取組

43

日本語指導ボランティア養成講座の開催

- ・ 外国人住民が地域で安心して日常生活を送るためには、外国人住民の日本語学習機会を確保することが重要。
- ・ その役割を担っていただいているのが地域ボランティアによる「地域日本語教室」だが、外国人住民の増加により、地域日本語教室の支援者が不足。

京都府国際センター、京都にほんごRings(※)、地域日本語教室と連携し、日本語指導ボランティア養成講座を開催

※京都府内のにほんご教室のネットワーク

実施日：令和3年8月21日～10月9日(毎週土)

場 所：八幡市文化センター、松花堂庭園・美術館

講 師：京都にほんごRings、京都教育大学 国文学科 浜田教授

内 容：やさしい日本語によるコミュニケーションや文法、外国人住民への模擬指導

受講者：25名

17名が市内の日本語教室等で活動中
(R3.12末時点)



44

男山地域の情報発信

■ だんだんテラス facebook おひさまテラス facebook

■ 八幡市役所

<http://www.city.yawata.kyoto.jp/category/1-23-0-0-0.html>

■ UR男山団地（特設サイト）

https://www.ur-net.go.jp/west/case/otokoyama_danchi/index.html

■ UR男山団地（住宅情報）

https://www.ur-net.go.jp/chintai/kansai/kyoto/80_1840.html

■ 関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト(KSDP内サイト)

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/index.html>